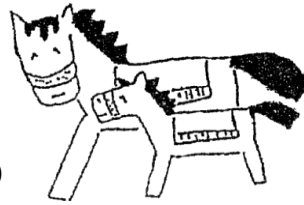


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

23年 7月 NO. 200



(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～

7月の主な活動

～お気軽にどうぞ～

7月 8日	金	おはなしの会 10:00～12:00	七夕まつりのことやカエルのはなしなど 楽しいことがいっぱいです。
7月 9日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
7月 23日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も育児体験においで下さい。
7月 23日	土	木工教室 14:00～16:00	木製品の修繕もできます。
7月 27日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	宮武画廊の小西百々代さんに 経験談を話していただきます。
7月 29日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)

<ul style="list-style-type: none"> ・毎火曜日 園庭開放(13時～16時) ・上記の活動日以外は13時～18時まで地域開放しますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み) 	<p>育児相談 (月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、 保育園生活、入園・見学について の相談もどうぞ。</p>
--	--

海のお宮

—おはなしのうたの四—



海のお宮はろうかん琅玕づくり、
月夜のような青いお宮、
青いお宮で乙姫さんは、
きょうも一日、海みえています。
いつか、いつかと、海みえています。

いつまで見ても、
浦島さんは、

おか浦島へかえった
浦島さんは—

海のおくにの静かな昼を、
うごくは紅い海くさばかり、
うすむらさきのその影ばかり。

百年たっても、乙姫さんは
いつか、いつかと、海みえています。

ろうかん
*琅玕—中国産の硬玉の一種。
暗緑色または青碧色。

金子みすゞ

童話全集1

美しい町・上より

木のおもちゃで育つもの (パート I)

～5感を磨き応用力を育てる～

色とりどりではないけれど、自然の木のもようやにおいを体で感じつつあそぶ木のおもちゃは、大事に使いこまれて親から子へひきつがれることもあります。そんな木のおもちゃがどんなところでどんな思いで造られているのか、7月(パート I)、8月(パート II)の2回でご紹介します。



木製玩具をはじめ食器や家具、建築までも手掛ける飛騨高山の工芸村「オークヴィレッジ」。「木」という再生可能資源で持続可能な循環型社会を実現しようと提案し続け、長年にわたって木工と森林保護の活動を続けています。2009年度のグット・トイに選ばれた「森の合唱団」は、木の特性を生かして同じ長さの音盤で作上げた木琴です。木育の代表玩具ともいえる「森の合唱団」の生みの親でオークヴィレッジ代表の稲本正さんに、木へのこだわりとご家庭での木育、そしてグット・トイが生まれた背景を伺いました。

葉っぱは地球をきれいにしつつ、人を癒しながらものを作る工場だ



オークヴィレッジを始めて35年になりますが、実は僕の原点というのは原子物理です。原子物理というのは、原子を対象にした物理学で、なかでも原子の持つエネルギー関係の研究をしていました。当時大学で原子物理の研究をしながら長野の山奥に山小屋を建てた。なぜ建てたか、ひと言でいうと、「葉っぱ」がすごいと思ったんですね。僕らが使っている石油は化石資源といって、一度使ったら二度と使えない。ところが葉っぱは再生可能資源の木を作る。そして人間の捨てる二酸化炭素を吸収してくれるわけです。人間が化石資源で物を作るとき、周りを汚しています。鉄や金属を溶かすにはエネルギーをかけてCO₂を出している。さらにゴミになったらまた地球を汚す。ところが木は地球をきれいにしながらものを作るという、ある種の小型工場ですね。木の幹は地中にある水と地球にふりそそぐ太陽光でできていくのですが、石油や石炭と同じ炭化水素なのです。葉っぱは人を癒しながら、なおかつ地球をきれいにしながらものを作れるという、ものすごい能力を持っていることになります。

僕は物理学からスタートしているので、最初は葉っぱに替わるものを作ろうと思ったわけです。葉っぱとよく似たものを人工的に作り太陽エネルギーを集め、環境問題やエネルギー問題を解決したいと。物理的に研究を重ねて、太陽光の必要な一部だけを吸収する「選択吸収面」という仕組みを作ろうとしていたら、ある時、化学者のカルヴィンという人が

「葉っぱは選択吸収面だ」と書いているわけですよ。人工的に作ろうと思っていましたが、自然の中にすでに選択吸収面はあるのだと。そのカルヴィンは光合成の回路を発見して、それを人工的に作れば石油や石炭はいくらでも作れると豪語した。ところが3年後にはまちが이었다と言う。いくらやっても葉っぱには勝てないと。それで僕も葉っぱはすばらしいと気付いて原子物理をやめようと思いついたんです。

当たり前のことですが、あらゆるものは生まれて死にます。葉っぱも生まれて死ぬ。そのシステムが正しいのです。それを人間があるときからなるべく死なないようにしようとしている。葉っぱは緑で、紅葉して枯れて散る。でもその中でしっかり働きます。そういうものは良いなと思って、都会生活をやめて葉っぱがいっぱいある山へ行ったわけです。まず長野の山に山小屋を作りました。その時に手伝ってもらった木こりと大工にうまいって褒められて、それでオークヴィレッジを作ることにしたんです。場所は、匠の伝統があり、親父が昔住んでいた高山に決めました。



子育てで木育の効果を実証 自然のもので遊ぶと応用力が育つ

飛騨の山奥にオークヴィレッジを作るのと同時に双子が生まれました。名前は「遊」と「零」。遊んで零点を取ってこいっていう意味なんですよ(笑)。もう一人下もいて「弾」といいます。男3人は山の中で育ったので精神が強くなりましたね。精神が強くなると応用が利く。例えば、うちで作っている木琴「森の合唱団」。ドレミファソラシドと音階がありますが、音盤に使用する樹種の配列はその都度違うんですね。要するに応用です。自然のもので遊ぼうとすると応用しなければならない。原則は確かにありますが、臨機応変にやらなければならない。それでたくましくなるのです。子供にたくましく育て欲しいと口で言ってもダメですね。それを具体的に体験させないと。体験させるひとつのツールが、素材がいろいろな積木であったり、素材がいろいろな音楽器だったりするわけです。うちの子どもたちは小さなころから工房で作ったおもちゃを使っていました。結果的には木育をしていたことになりましたね。おかげさまで3人も国際人として海外でたくましくやっていますよ。

実は息子には「ここはテレビが映らない」と嘘をついてテレビなしで育てました。今から考えるとそれは良かった気がします。テレビはほとんど間違った情報だと思うからです。なぜかという、五感のうち視覚と聴覚しかない。テレビから香りは出てこないですし、触ってみても映っている花の感触はわかりません。ましてや食べることはできない。だから五感のうち二感しかないのです。あとの三つの感覚は消えている。つまり、これは誤情報なのです。テレビがなかったことによって、家の子供たちはいやでも常に五感が働く。それと僕は忙しい中でも子供たちとはよく遊びました。精神が半分は子供なんだなあ(笑)。

ことしから当園では、高校生や中学生の保育体験や見学を重点的に受け入れていく予定です。次の世代をになう若い人たちが、小さい子どもとふれあって、将来の子育てや職業を選択する時に役立ってほしいと考えています。

ことし3月、職場見学に来た豊島中学生さんや職場体験の玉藻中学生さんから感想文をいただきましたのでご紹介します。

つくし組は1才児なので言葉が分からないだろうと職場体験前は勝手に思いこんでいました。しかし、子供達と遊んだりおやつを食べたり、寝かしつけたりなどふれ合っているうちに言葉を話せなくても人の言葉を理解しているということに気づきました。

例えば、遊びの時間、ある2人の子がおもちゃのとり合いをしケンカをしてみました。もみ合いになってしまいかたほうの子の頭におもちゃがあたってしまいました。その光景を見て私はとまどうばかりでした。すると、ある先生がおもちゃをぶつけてしまった子のほうに、「〇〇ちゃん、頭痛かったんだよ。よしよししてね。」と呼びかけると、その子は先生の言うとおりに頭をなでていました。

職場体験を通して、コミュニケーションの大切さを学びました。これから友だちや家族、先生に対してコミュニケーションをもっと大事にしていきたいです。

保育園では小さい子どもたちと遊びました。小さい子どもたちはすごく元気いっぱいがかわいいなあと思いました。そしてとても大勢の子たちがいたのでびっくりしました。先生のお話から保育士に向いている人は、子どもが好きだけではなく辛抱強く、子どもを待てる人ということを知って初めて知りました。この保育園では、正座でごはんやおやつを食べるということを知って小さいのに躡ができてすごいなあと思いました。そして1クラスに3人の先生がおり、それぞれ厳しくしかる先生、優しく甘えさせる先生と役割がわかれているときいて、びっくりしました。保育士の仕事は思っていたより大変そうだったので、びっくりしました。私も将来、保育園の先生になりたいです。だから、そのためにも今から勉強をがんばりたいです。そして先生になったら子ども達から好かれる先生になりたいです。

私は将来、保育士になろうと考えていますが今日見学をしてみて、とても大変だなあと思いました。子どもたちの人数が多くて、しかも走り回っているからです。私が見ているも、ぶつかったりこけたりしている子がたくさんいたので、豊島と比べると全然違ってとてもびっくりしました。確かに辛抱強くないとこの仕事にはつけないなあと実感しました。人の子どもを預かっているから、いつもケガや病気がないか見ておかないといけないので、大変だなあと思いました。また、成長を喜んだり厳しくしかったりできるのは、自分の子どものように思っているからだということを知りました。私も妹や弟と遊んでいる時に自分の爪が伸びていてひっかいてしまったことがあるので、これからは気をつけたいです。今日は高松保育園に着くと、すぐに色々話かけてくれてとても嬉しかったです。私は小さい子どもが大好きなので保育士を目指し、今日学んだことを生かしてがんばりたいです。

